

## 目標達成計画

作成日: 平成 23年 4月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議メンバーのスケジュール調整が出来ず、定期的な開催が出来ていない。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、利用者やサービスの現状や取組状況等について報告や話しあいを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし、より良いグループホーム作りを目指す。	先月、第1回を開催。今後の運営推進会議年間スケジュールを及び議題を報告し参加協力をお願いしました。今後は年間スケジュールに合わせ、メンバーへ参加依頼を出し、定期的な開催を行っていく。	12ヶ月
2	35	年2回の消防・避難訓練を開催しているが、前年は自主訓練のみであり、夜間想定での訓練も行われていない。	消防署へ参加依頼を行い、消防・避難訓練に立ち会ってもらい指導を受ける。また、夜間想定での訓練を行い、利用者を安全に避難させるために取り組む。	6月・12月に消防・避難訓練を行う。まずは6月実施に向け、消防署へ立会いを依頼できるようスケジュール調整を行う。また、実施前に全職員に対し、事前教育を行う。	12ヶ月
3	26	介護計画に対する取り組みが日常の記録に記載されておらず、目標達成に向けた実践状況が、口頭のみで引き継がれている。	介護計画に対する取り組みを、日常の記録に記載し、職員間で実践状況を把握できる環境を作り、目標達成に向けアイデアや意見が反映される仕組みを構築する。	日常の記録に介護計画を落としこめるようにフォーマットを改定。また、職員勉強会を開催し、記載方法及び介護計画について周知を行う。	6ヶ月
4	6	新人教育時に身体拘束について説明は行っているが、言葉による拘束についての教育がされていない。	新人教育に身体拘束の種類等の説明を取り入れる。拘束を行わないケアの実践を、全職員の共有認識とし、職員間でも気づいた時には注意できる関係をつくる。	身体拘束について勉強会を開催する。現在、資料作成中である。	3ヶ月
5	36	居室トイレの使用時にドアが開いている事があり、配慮が必要である。	居室トイレ使用時はリビングからのドアを閉めるよう、入居者へ声掛けを行い、開いている場合は職員が閉める等、プライバシーへの配慮を徹底する。	職員へは、口頭にて指示済みである。今後、勉強会を開催し、継続的に意識付できる仕組みを作る。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。